

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
電話番号	0827-83-0036	事業所番号	3577200920
法人名	有限会社 龍泉		

訪問調査日	平成 21 年 10 月 7 日	評価確定日	平成 22 年 2 月 5 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	21 人	常勤 8 人 非常勤 13 人 (常勤換算 13 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造(在来工法) 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 42,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
その他の費用	月額 13,000 円			
	内訳	光熱水費 10,000	共益費 3,000	

(4) 利用者の概要 (10月7日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護 1	5	要介護 4	5
	要介護 2	4	要介護 5	0
	要介護 3	4	要支援 2	
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 松井医院 歯科 おかもと歯科クリニック
-------------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

日中は居室、玄関には鍵をかけず、利用者は自由に外に出ることが出来、閉鎖感のない解放されたホームで生活できるよう見守りの支援をされています。毎月1回、食事会、花見、公園、海岸等季節感のある場所へ利用者全員でかけておられます。習字ボランティアや、傾聴ボランティアの来訪や、地域の方々と一緒にAEDの取扱いの実習をしたり、家族が夏のイベントに参加し、多くの方々地域交流をされています。

(特徴的な取組等)

歯科医の訪問が2ヶ月に1回あり、ブラッシングや噛み合わせ指導を受けて、毎食後口腔ケアを行い、感染予防、肺炎予防に取り組まれています。介護記録に個別の支援目標、食事・水分摂取量、排泄、入浴、薬、バイタル等、一人ひとりの記録が1枚のチェック表に記録され、健康状態や特記事項等が把握できるようにされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果について、ミーティング時に職員で話し合いをしたり、運営推進会議での意見交換等をして改善に向け取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解され、自己評価書を申し送りノートにファイルし、職員全員で確認し、気づきがあればその都度記入してもらい、運営者の項目は運営者に意見を聞いて、最後に管理者がまとめておられます。

(運営推進会議の取組状況)

自治会長、民生委員、地域住民代表、消防署長、地域包括支援センター職員、第三者委員、利用者2名、家族2名、職員のメンバーで2カ月に1回開催されています。外部評価結果報告や施設の状況、行事等報告されています。

(家族との連携状況)

毎月1回、虹便りに一人ひとりの健康状態や、暮らしぶりの写真を載せ、家族に送付されています。家族の訪問時に健康状態や金銭管理を報告し、状況に応じて電話等で連絡されています。誕生会に家族の参加を呼びかけて、意見を聞いたり、年1回家族の集いを開いて、家族が自由に意見が出せる機会をつくっておられます。

(地域との連携状況)

毎月1回、地域向けの広報紙を7地区に回覧し、情報発信されています。利用者は敬老会、盆踊り、芋煮会に参加し、職員は地域の清掃作業に参加されています。施設で行う花火大会、運動会に、地域の人々の参加があり、交流の場になっています。習字ボランティア、傾聴ボランティア等の来訪があり、交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	大家族主義を掲げ、「利用者の方が地域の中でその人らしく生き、毎日穏やかな生活で過ごせるように寄り添い、家庭の温かさを大切にします」と独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設の出入りに理念を掲げ、職員はミーティング等で理念を再確認し、目標に向かって日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	毎月地域向け広報紙を7地区に回覧している。地域の敬老会、芋煮会、草取りなどに利用者が参加し、職員は地域の清掃作業に参加している。ホームで行う運動会や花火大会に地域の人々が参加し、交流を図っている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は評価の意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会長、民生委員、地域住民代表、消防署長、地域包括支援センター職員、第三者委員、利用者、家族、職員のメンバーで2ヶ月に1回開催し、状況報告、施設からの要望等を報告し、出された意見をサービスに活かしている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	岩国市地域密着型サービス事業所連絡協議会を立ち上げ、行政と意見交換を行い、サービスの質の向上を図っている。介護保険課と介護申請等について意見をもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回、虹便りに利用者一人ひとりの健康状態や暮らしぶりを写真にしてコメントを付けて送付している。健康状態に変化が生じたときは電話等で報告している。金銭管理については個人の出納簿を家族に確認してもらっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	年1回家族の集いを開催し、苦情や不満等家族が自由に話せる機会を提供している。苦情や相談を受け付ける窓口を定め、職員、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8名、非常勤13名の職員を確保している。夜勤は2ユニットに常勤1名、夜勤パート1名の職員配置となっている。急な休み等には職員の勤務調整で対応している。	・各ユニットに1名の夜勤体制の検討
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限に抑える努力をしているが、止む得ない場合は馴染みの職員が対応する等利用者のダメージに繋がらないように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じて研修を行い、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会の研修会に参加したり、外部研修にも積極的に参加を勧めている。月1回の全体会議でテーマを決めて研修会を行っている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	岩国市地域密着型サービス連絡協議会を設立し、施設が順番で開催し、情報交換を通してサービスの質の向上を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に家族と利用者に訪問してもらい、職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるように家族と相談しながら支援している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>共に過ごしていく中で、味噌汁の味付けなど教わったりしている。昔の出来事を聞いたり、昔の遊びを一緒に楽しんだりして支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりや会話、利用者の表情などに気をつけ、思いや暮らしの希望の把握に努め介護記録に記入している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月1回、ケアカンファレンスをユニット毎に行っている。家族の意見や要望を聞いて、意見を介護計画に反映している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回見直しを行い、状況に変化が生じた時は本人、家族、関係者と話し合い、新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎や付き添いの支援をしている。地域の行事への参加、外食、帰宅願望がある利用者は自宅周辺までドライブをするなど柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回の協力医院の往診、かかりつけ医の往診等個々の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者、家族、主治医、事業所で早い段階から重度化のあり方について繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。9月に1名の看取りをした。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルを作成している。日々のミ-ティングやユニット会議で言葉かけや対応について話し合いをしている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活歴や会話の中から、その日をどのように過ごしたいか理解するようにつとめている。興味ごとや外出等希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理し、職員は利用者と同じ食事を食べている。片付けを役割分担しながら行っている。誕生日会は家族も参加し、献立は本人の希望を取り入れている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は週3回14:00～17:00にしているが体調や本人の希望により、曜日を変えたり、毎日入浴できるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	習字、墨絵、カラオケ、体操、洗濯物たたみ、食事作り、盛り付け、食器洗い、季節の作品づくり等楽しみごとや活躍できる場面づくりを支援している。美容師の仕事をしていた利用者に浴衣の着付けを家族と一緒に習いながら、活躍できる支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、四季折々に、もみじ観賞、あじさいまつり、城下町散策など戸外に出かける支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について施設内研修や日々のミーティングで再確認を行い、正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室はガラスの引き戸で、自由に出入りが出来、日中は玄関、居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出はセンサーで察知し、職員と一緒に出かけている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、火災等を防ぐため内部研修を行っている。一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成している。AEDの講習を受講し、緊急時の対応や初期対応の訓練を行っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災、地震、風水害等のマニュアルを作成している。火災避難訓練を年2回実施し、夜間を想定した訓練も年1回行っている。運営推進会議や広報回覧等により、地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員が薬の情報を理解できるように個人医療ノートを作成し、状況判断できるように努めている。必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後個別ケアを行い、口腔清掃保持の支援、肺炎予防に努めている。歯ブラシや義歯等の消毒、保管についても支援している。2ヶ月に1回歯科医の往診があり、噛み合わせやブラッシング指導を受けている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の立てたバランス献立で食事を提供している。一人ひとりに合わせた食事量にし、水分量、食事摂取量を記録している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、職員、外来者の手洗い、うがい、手すりの消毒、体調管理など行っている。感染症の研修を行い、共通理解している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	木造平屋作りで、天井が高く、明るく、玄関やフロアは広く、2ユニットで利用者が自由に行き来できる共用空間になっている。調理の音が聞こえ、生活感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット、筆筒、ソファ等好みのものが持ち込まれ、車いす利用の人は移動バーが備えてあり、居心地良く生活できるように工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム秀東館 虹
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733
電話番号	0827-83-0036
開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日

【実施ユニットの概要】 (9 月 23 日現在)

ユニットの名称	ユニット1			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	2	要介護 4	2
	要介護 2	3	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 89.2 歳	最低 80 歳	最高 95 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を申し送りノートにファイルし、職員全員で確認できるようにした。その際、気付き点があればその都度記入するようにした。ただし、記入項目は、管理者が記入した。運営者の記入項目については、運営者に確認をとりの記入した。又、98～110項目については、ミーティング時に職員間の話し合いにて記入とした。
評価確定日	平成 21 年 9 月 23 日

【サービスの特徴】

施設の建物は、現代建築による高い天井・天窓からの自然の光、自然の風を取り込むことができ、開放感にあふれ、明るく心が和む造りとなっています。開設から3年経過していますが、施設運営や行事等については、どのようにしたらよいか、またすべきかと模索・検討は継続しているところです。しかし3年が経過したこともあり、利用者の方と少しずつ信頼関係も築け、一人一人の性格や望んでおられること、そして悩みについても理解が出来始めたと思っています。日々一喜一憂され、日々状況も変化される利用者の方に出来るだけ寄り添い、秀東館の理念である“大家族主義”のごとく、我が家として安心して暮らしていただけるようにしていきたいと、スタッフ全員・チームワークで取り組んでいるところです。またご家族や地域の方も自由に出入りができるよう、施設内外一切施錠せずに閉鎖感のない開放された体制をとっています。地域に密着した開かれた施設として、ご家族や地域の方が気軽に立ち寄りいただけるように、一層の努力をしていこうと思っています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>大家族主義の理念を基本に、利用者の方が地域の中でその人らしく生き、毎日穏やかな生活で過ごせれるように寄り添い、家庭の温かさを大切にすることを掲げている。</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>施設の出入り口に理念を提示し、研修会等にて理念を再確認をし、目標に向かい日々取り組んでいる。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>施設の出入り口に理念を提示し、研修会等にて理念を再確認をし、目標に向かい日々取り組み明確に示している。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>毎日行うミーティングや、月一度のユニット会議において、サービスの質の向上に向けて、事例や資料を用いて話し合い、今改善をしなければいけない課題(支援方法等の検討及び改善)など、職員全員と共に取り組んでいる。</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>家族の方には月1回虹便りを郵送し、地域の方には情報発信を月1回自治会回覧板にて回覧をし、その版において大家族主義を明記している。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>施設の行事等(AED講習会、消防訓練、地域交流大運動会、季節行事)のお知らせを近隣の方に配布している。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>利用者の方は、地域の敬老会に参加し、職員は地域の清掃活動に参加している。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>運営推進委員会において、施設完備のAED(自動体外式除細道器)を地域の方にも活用して頂けるようお知らせし、使用方法についても職員、地域の方と共に講習会を年2回実施している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の指摘、アドバイスを受けた内容については、運営者、管理者、職員と改善策について話し合いをし、改善に取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議にて、外部評価の内容や、評価結果を報告・説明を行っている。個別ケア、行事等	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会にて、行政との意見交換の場を設け、サービスの質向上に取り組んでいる。又、気付き、不明な点があれば、その都度、市の介護保険課に電話で問い合わせしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	成年後見制度を利用者の方で1人利用されている為、職員は、成年後見制度とは何か？学ぶ為に資料配布している。権利擁護については、研修会は開催していない。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法については、施設内において研修会として学び、虐待防止に努めている。日々のミーティングでも、職員に虐待についての事例について話し、資料配布をしている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、利用者、家族の不安、思いを尋ね、内容に関し、理解し、納得して頂けるように、十分な説明を行うように、心がけている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見、不満、苦情を表せれるように、個別で話し合う場を設けている。毎日のミーティング、ユニット会議で提示し、打開策を検討している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	各個人毎に虹便りを毎月1回作成し、暮らしぶりや、身体、健康状態を写真、コメントにて報告している。健康状態の変化などは家族へ電話連絡にて報告をし、金銭管理に関しては、個人の出納簿を確認して頂いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	同グループで親睦会等の場を設けている。職員ミーティングで各種諸問題について意見を聞く場をもつようにしている。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	常日頃も勤務の状況を把握し、責任ある職へ登用や毎年の昇給を行っている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	職員の勤務状況を把握し、査定をもって毎年の昇給額を決めて支給している。		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問、面接をさせていただき、本人の感情表現を自由に表で出来るような場作りを行い、傾聴、共感、受容に努めている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問、初回面接をさせていただき、ご家族より過去から現在までに至る情報収集を行い、家族の状況、表出された感情の意味を理解し受容に努める。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用の対応はしていないが、他施設、病院への空き状況の確認、紹介はしたことがある。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設の概要、または、雰囲気等を知っていただく為に、事前に施設の見学を勧め、職員、利用者、話をしたり、お茶を共に飲んだり顔なじみとなり、少し雰囲気を味わった状態でサービス利用を開始している。		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の方と共に過ごしていく中で、コミュニケーションにより昔の出来事、知恵など人生勉強を学び、又、昔の遊びに関しては共に楽しめる関係を築いている。個別に関わる時間を増やしている。		個別に関わる時間を増やしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		個別、支援目標に添って記録記入しているが、記録の書き方を支援に添って詳しく記録できるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者が、施設生活をよりよく暮らす為に家族の意見、要望等については聴いているが、利用者の意見、要望は、一部の方のみ反映し介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直し、状況変化が生じた場合もご家族、必要な関係者との話し合いによってサービスの変更を行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月別の介護記録、個別ケース記録にて、情報を共有しながら、個別介護目標、介護計画の見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	各行事等の参加をはじめ、希望があればレクの夕食、施設での食事等柔軟な支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署署員派遣にてAED、救急の講話など、地域のボランティア(舞踊、童謡、書道、傾聴)の慰問、近隣の保育園、小学校の児童との交流をもっている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	中学生体験学習、他施設職員研修、中学生教師研修などで、研修の受け入れを行っている。又、見学も随時可能としている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居状況や施設概要についての問い合わせの対応は、他介護支援専門員やサービス事業者の方と話し合いをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーマニュアルを作成している。日々のミーティング、ユニット会議において、言葉かけ対応については話し合いを重ねている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の話、思いに傾聴、共感、受容しながら、説明を行い、利用者自身に自己決定をしていただきながら、納得いく生活支援している。買い物、外食、喫茶店、衣類は、自分の好みのものを自分で選び決定している。</p>	<p>個別ケアの時間を増やしていきたい。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>個々の残存能力、秘めた可能性を見極め、状態を見ながら掃除、食事支度、洗濯物、食器洗い等の家事手伝いを生活リハビリとし、手伝って頂き、本人の自信に繋げできる力を大切にしている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりが何をしたいか生活歴、会話の中での興味事から、どのようにその日を過ごしたいか理解するように努めている。又、興味、外出については個別ケアにて支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>施設に来館している美容師を利用される方、今まで利用していた美容院にいかれる方など本人の望みにて利用していただいている。又衣類などは、本人の好みのものを選び、一部の方は、お化粧品したりと利用者の個性を大切にしている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者、職員は共に毎日の食事準備、後片付けを役割分担をしている。誕生日会の献立、飲み物など、利用者の希望を取り入れている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>食事は季節感を味わえるように、季節の食材を使い日常生活を楽しめるように支援している。また、お酒についても行事の際お出しする時もある。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表でチェックし、失禁した排泄時間の統計をとり、誘導時間を考慮している、又おむつ外しの実施に取り組んでいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週3回と入浴の曜日を決めているが、体調や本人の意思に添え入浴ができるように、曜日を変えたり、順番の要望を聞き、ゆっくりと、くつろげれるよう、声掛け対応に配慮しながら支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中の活動支援を行い、自然に睡眠が促せるよう安眠策を支援している。夜間の状況を見て、室温の調整を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者一人ひとりの残存能力を生かし、日々のリハビリにて、活躍できる場面作りに支援している。生活リハビリ、趣味活動、外出、ドライブなど、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談して本人の状況に合わせ、本人がお金を所持し使えるよう支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に添って、散歩や買い物、ドライブを個別ケアにて支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に1回は、レクレーションにて、外出の機会を設けている。又、ご家族の方との外出や外食、旅行に行かれる場合もある。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者が、電話を掛けたいと要望があれば、自由に電話をかけて頂いている。手紙も届けば、本人のお渡しをしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等が、遠慮なく訪問できるように、職員が声掛け、お茶出しを行い、居心地よく過ごせるよう温かい雰囲気作りをしている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望であれば居室への宿泊が可能であることを説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		鍵をかけないだけに、目配り、気配りで利用者の所在確認は徹底していきたい。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災、地震、風水害、土砂災害時のマニュアルを作成している。運営推進会議にて、地域の方々へ協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりのリスクに起こり得るリスクについて、家族にその都度説明を行い、抑圧感のない暮らしを送るには、どのような生活を支援していくか施設側、家族側と対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化や異変に気づいた際、速やかに主治医へ報告し、指示を仰ぐようにしている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員が確認できるよう、個人医療ノートを作成し、状況判断ができるように努めている。服薬に関しては、毎回薬剤師より注意事項の説明、指導を受けている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給や適度の運動、または、繊維質のある食事に配慮し、必要に応じて主治医に報告、相談をし、指示を仰いでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	2ヵ月に1回歯科往診。噛み合わせ、ブラッシング指導を受けている。毎食後個別ケアにて口腔内清掃保持の支援、肺炎予防に努めている。定期的にポリデントにて、義歯洗浄、保管をしている。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の立てる献立に従って食事を作り、食事量は個人に合わせ、量や水分量の確保に努め記録している。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し感染症の予防対策をしている。職員、来客者の手洗い、うがい、消毒、体調管理、湿温度の管理、室内の換気を徹底して実行している。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生マニュアルを作成し、食材の管理等は、毎週日曜日に確認をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設内外において、施錠せず自由に出入りができるようにしている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	施設の天上は高く、明かりとりの窓があり、自然の光や風が取り込める建物の構造になっている。利用者の方が安心して過ごせるよう、テレビや音楽の音、証明の光調整、職員の声トーンに配慮している。又季節の花をアレンジしたり、季節の旬な食べ物を取り入れ季節感などを感じてもらえるよう工夫している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間として、食卓、ソファがあり、畳を置くなどの配慮をし、思い思いに過ごせる工夫をしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、本人、家族と相談しながら今まで使い慣れた馴染みの物、家具、仏壇など本人が居室で心地よく過ごせるよう工夫している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	1日1回は天窓を開け、換気している。各居室においては、窓を開け換気したり、エアコン、暖房などで室温管理をしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	共有空間での手すりを利用しての歩行、トイレでの手すりを利用しての立ち上がり等、見守りしながら身体機能に活かせるように工夫している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりにあった声掛けを行い、職員が共に行動することにより不安、混乱ご防ぎ、利用者の生活の自信に繋げ自立した暮らしができるように工夫している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前では、テーブルをだして、おやつ、歌を唄ったりとレクの時間を外で楽しんでいただいたり、外の風景を見ながら、建物外周季節感を感じながら散歩されている。ご家族、地域の方々と共に毎年地域交流大運動会を開催している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 秀東館 虹
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733番地
電話番号	0827-83-0036
開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日

【実施ユニットの概要】 (9 月 23 日現在)

ユニットの名称	ユニット2			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	8 名	男性 0 名	女性 8 名	
	要介護 1	2	要介護 4	3
	要介護 2	1	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 88.5 歳	最低 87 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価書を申し送りノートにファイルし、職員全員で確認できるようにした。その際、気づき点があれば、その都度記入するようにした。ただし記入項目の殆どを計画作成担当者が記入することとなり、確認を管理者にお願いした。運営者の記入項目については、運営者に確認をとっての記入とした。98～110の項目については、ミーティング時に、職員間の話し合いにて記入とした。
評価確定日	平成 21 年 9 月 23 日

【サービスの特徴】

施設の建物は、現代建築による高い天井・天窓からの自然の光、自然の風を取り込むことができ、開放感にあふれ、明るく心が和む造りとなっています。開設から3年経過していますが、施設運営や行事等については、どのようにしたらよいか、またすべきかと模索・検討は継続しているところです。しかし3年が経過したこともあり、利用者の方とも少しずつ信頼関係も築け、一人一人の性格や望んでおられること、そして悩みについても理解が出来始めたと思っています。日々一喜一憂され、日々状況も変化される利用者の方に出来るだけ寄り添い、秀東館の理念である“大家族主義”のごとく、我が家として安心して暮らしていただけるようにしていきたいと、スタッフ全員・チームワークで取り組んでいるところです。またご家族や地域の方も自由に出入りができるよう、施設内外一切施錠せずに閉鎖感のない開放された体制をとっています。地域に密着した開かれた施設として、ご家族や地域の方が気軽に立ち寄りいただけるように、一層の努力をしていこうと思っています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価における指摘項目について運営推進会議において報告し、今後の取り組みについては改善点の説明をして、意見交換をしている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では外部評価について説明・報告し、今後の取り組みについても、指摘項目の改善点について説明をして意見交換をしている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を立ち上げ、共にサービスの質の向上に取り組み、年に一度は行政と意見交換をしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	当施設でもお一人成年後見制度を活用されているが、他の利用者については該当なしである。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修において高齢者虐待防止関連法について説明し、資料を作成し誰でも見れるようにして、虐待防止に努めている。職員同士で「ダメの言葉はつかわないよう注意」あっている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、内容を理解できて納得できるような説明を心がけ、不明点について遠慮なく聞ける環境づくりに努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情・不満等については個別に傾聴して、希望に添えるよう努めている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月個人単位でコメント入りの情報誌を作成・送付している。金銭管理については、面会時個人出納簿や現金の確認をしていただくよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		個別に関われる時間を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		記録内容が漠然としていることがあるので、支援に基づいた記録ができるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族とは面会時に話しをさせていただき、希望等聞けるようにしている。ケアについても職員・家族・医療と連携をとって介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直ししているが、計画作成が先行して関係者との話し合いより、説明になっている。	介護計画作成において、もっと家族等の関係者と密な話をしていきたいと思う。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録により情報の共有ができ、介護計画の見直しに活かされていると思う。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	希望に応じ、外出・外食・外泊と柔軟な支援をしていると思う。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティア活動の方に協力していただいて、慰問があったり、避難訓練では消防機関の協力を得て指導を受けている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	他施設からの研修申し込みにより実践となっているケースもあり、見学については、常時お受けしている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要性に応じて他のサービスを利用するための支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		ご家族には移り変わる理由や利点を説明して理解いただけるよう努め、新しい施設にも当施設での情報を提供する等して連携をとっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>記録等は人の目にふれないよう管理に配慮し、個人のプライバシーが守れるよう排泄・入浴時についても言葉かけや対応に気をつけている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何をどうしたいのか、ゆっくり探っていききたいと思う。自分の時計に合わせてしまうこともある。</p>	<p>個別に関われる時間を増やしていきたい。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>個々の体調に合わせて生活リハビリをしていただいている。利用者の“できる力”は大切にして維持できるようにしていきたいと思う。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の方に待っていただくことがあり、職員のペースに巻き込んでいると思うことがある。</p>	<p>今を大切に考えて、待たせることが少しでもなくなるよう、希望にそえる支援にしたいと思う。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者によっては好みの美容院を利用されているが、殆どが施設に来館していただける美容師を利用しておられる。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>昼食時は職員も利用者と同じテーブルで、同じ食事を摂っている。また食物の形態を工夫して食べていただけるよう配慮している。職員と共に片づけをされる方もある。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>日常的とは言えないが、行事の際には望みにより、お酒を嗜まれる場合もある。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄の失敗が防げるよう前誘導を心掛けている。夜間等は排泄の統計をとってミーティングで確認・申し送りして気持ちよい排泄ができるよう心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日は決めているが、体調やタイミングに合わせて変更する等の柔軟な対応としている。拒否のある場合も様子観察して、無理強いしないようにして曜日変更している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	安眠が促されるようパッドやおむつの検討をしている。また夜間の声かけはタイミングを図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	気晴らしになるよう、日々のレクを、歌にしたり、折り紙したりと工夫している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在お金を手元に所持されている方はいらっしゃらないが、買い物等は希望に応じご一緒したり、お金についてもご家族より預っているからと説明をさせていただいている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	団体で戸外へ散歩に出たり、個別に出かけたりと希望にそって支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月一度はレクリエーションで、遠出をしており、ご家族が同行される機会もあった。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話がかかれば取次ぎ、手紙が届けば直接ご本人に手渡している。また電話したいと言われれば、自由にしていただいている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	知人・友人の方の面会もあるので、気軽に訪問できると思う。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば、居室への宿泊は可能であると説明はしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	大きい行事の際、ご家族や地域の方に声かけはしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	魔の三大ロックについて研修会において正しく理解し、廃止し、抑制や拘束のないケアができるよう職員同士が声かけをしている。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中どこも施錠せず、自由に出入りができるようにしている。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	施設四方のセンサーを利用して利用者の方の所在確認をしている。夜間は2時間毎の巡視を行なっている。		鍵をかけないだけに、利用者の方の所在確認は徹底していきたい。
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員の見守りの下で注意の必要な物品使用としている。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	施設内の研修において転倒や誤嚥の研修を定期的に行ない、事故防止を図っている。		
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応については定期的に研修を行ない、マニュアルを作成し見えやすい場所に貼付している。		
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリはっとは、職員全員で確認をするようにしている。確認した上で、職員は記名をするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中は開門しており、自由に入出入りできるようにしている。尚施設内においても施錠していないので、利用者の方も自由に入出入りができる。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	施設の天井は高く、明かり取りの窓から自然の光や風が取り込める構造となっているので、居心地はよいと思う。利用者の方が安心して生活できるよう清潔を保ち、整理整頓を心掛けている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室は個室で自由に過ごしていただける時間を持つことができる。また畳のスペースを作って懐かしい感触を味わっていただいていると思う。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、今まで使用していた家具や所有物等、好みの物を持って来ていただくよう勧めている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気に努め、エアコンによる室温管理をしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	共有の空間では手摺りを利用して自力歩行したり、トイレでも手摺りを利用して自力で立ち上がる等、できる事が維持できるような工夫をしている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱されないよう一人にせず、職員や他の利用者の方と共にを前提としている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先のスペースを利用して利用者の方同士が語り、歌を唄う等の活動を楽しんでおられると思う。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> たまにある	<input type="radio"/> 数日に1 回程度ある <input type="radio"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="radio"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	<input type="radio"/> 数日に1 回程度 <input type="radio"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> あまり増えていない	<input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="radio"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="radio"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない